

休憩をはさんで、「チューリップマニア」という演題でサリー・ステフルドの発表。ミシガンでなぜチューリップ?これは会場のグランドラビッツ周辺にかつて多くのオランダ人が入植したことにちなんでのこと。Holland(オランダ)という国名そのものやZeelandというオランダの町の名前のついた町がグランドラビッツのまわりによくある。



▲チューリップデザインの  
オールドノリタケ達

お昼には、山崎夫妻が日本人を自宅へご招待下さる。炊飯釜を持ちこんで炊いた秀子さん特製おにぎり。おいしい!!おみそ汁もあり、ほっとする。

午後からはデビッドの講演。今回は、普段見られない矮小な作品を多く集めた講演だったが、私としては前々回のフォブス氏などが登場した80日間世界一周のほうが面白かった。

講演が続いた後は余興の時間。グループに分かれて最初のクイズは、ミシガン州にちなんだクイズ。ミシガンに風車はいくつある?ミシガン州はリンゴの生産量でいえば全米で何番目?など、日本人にはちょっと難しすぎるなあ。

次はグループでノリタケ関連の絵を当てる「ピクショナリー」というクイズ。まず一人が前に出て行ってある事物を出題者から聞いて、それを自分のテーブルに戻って絵を描いて、他のメンバーが推測する。最初は簡単で「ディナーセット」。絵を描くのが致命的に下手な私は自分の番が回ってくるとドキドキしたが、お題は「灰皿」で、煙草と一緒に描いたらすぐ正解が出てほ!! 次第に難しくなり、私のグループでバーバラが描いたのは、丸い団扇の中に45という番号と、大きな黒い●がいっぱい。45って何の意味?この●ってなによ?答えはオークション。団扇のようなのはパドルで、●は入札者の頭らしい。これではわからん! 最後の問題は、男性の顔の横に、本が描かれもNoritake Newsの文字が。デビッドスペイン?ピンポン、正解!

夕飯のテーマは、“Touch of Dutch”(「オランダ風」)。ヤフーオークションで安く落札した木靴とエプロンをつけて会場に向かう。食事の途中からおなじみのくじ引き=ラッフルが延々と続き、きりがないので食事が終わると退席。今回は水弘さん欠席のため、水弘パーが夜オープンせず残念、部屋へ戻る。

コンベンションを通して、ゲリーヤナットから「ノリ(今村氏)は来ないの?」、デビッドから「クローグ(黒田氏、発音はスターウォーズのヨーダに近い)は忙しいの?」、

「Mr横山(なぜかこの発音は正確)は一度来てくれたけれどまた来てほしい」、リタとジェニーから「順子は元気?」などの声が。また、「ジュン(水弘氏)はどうしている?」「キムラサン(なぜか木村氏だけ「さん」付け。これはすでにニックネーム化?)や、カズオ(森川氏)は今回どうして来ない?」という声がいろんな人からあがっていた。日本人はたくさんオークションで買ってくれるからというNCSにとっての実益だけでなく、みな個人的に知り合った日本人と会いたいと思っている感じがよく伝わってきた。

## 2日目 オークション

さて、お待ちかねのオークション。

プレビューは8:45AM開始のはずだが、例年のことながら予定された時間には始まらない。9時を過ぎて扉が開くと待ちかねた会員は一斉に室内へとなだれ込む。おっ、今年は多いぞ。4列のテーブルにぎっちり並べられ、その点数445点。コンディションレポートや入札したい作品を記入するための用紙が事前に各自に渡されていて便利。さっそくJPSでも応用しよう。

9時半、オークション開始。テングロンハットをかぶったオークショニア登場。地方でオークショニアを雇うと日当が6~700でドルというのが相場らしい。オークショニアが読み上げる札をリタが受け取り、落札者と金額を手書きし、デビッドともうひとりがパソコンに打ち込む。スタート価格は10ドルから。しばらくするとオークショニアも分かってきて、あまりみなに興味を引きそうにない、数点で10ドルみたいなのは山口さんのほうにまっすぐ視線を向ける。山口さん、「しよがないなあ」という感じでパドルを上げて入札。ありがとう、山口さん。

どの順番で作品がでてくるのかわからないのでそれがいつもいらいら。でもまあ次の5~6点ぐらいは前に並べられているので、トイレなどで退席したいときはそれらを見てから判断。ランチの段階では、1/4ぐらいしか進んでおらず、予定通り終了するのだろうか?とやや心配。

今回の出品は、ジュエルデザインのようなとびきりものはないが、やはりレディ等はずいぶんことながら人気があり、どうしても競ってしまう(特に日本人同士で)。反対に一般のコレクターにはあまり興味のないラーキンカタログなどは安く落札できてうれしかった。ホーマーコナントのマリーアントワネットの花尽くしの絵も50ドルで落としてレン



▲オークション風景